

施策構築方針 R5→R6 新旧対照表

旧 R5	新 R6
<p style="text-align: center;">令和5年度に向けた施策構築方針 ～ みんなでつくる「健康しが」推進方針 ～</p> <p>1. 現状認識</p> <p>新型コロナウイルス感染症の拡大、ロシアのウクライナ侵略、気候変動問題などがもたらす世界的な社会構造の変化の中、先行きへの漠然とした不安感が我々を取り巻いている。</p> <p>新型コロナウイルスとのつきあい方は共存とも言える段階に入ったが、未だつながりの希薄化、メンタルヘルスの問題、出生数の減少など負の影響により、とりわけ子ども・若者世代は孤独や生きづらさを感じている。</p> <p>原油価格・物価高騰、急激に進む円安は、世界情勢の先行きの不確実性の高まる中で、緩やかに持ち直しつつあった本県経済の回復を妨げるリスクになるとともに、既にコロナ禍で経済的に厳しい環境に置かれた県民や事業者等をさらに困難な状況に追い込み、苦しめている状況がみられる。</p> <p>気候変動がもたらす異常気象の多発や生態系の変化は、県民の安全を脅かすとともに、農業、漁業などの産業に損失と事業継続への不安を与えている。</p>	<p style="text-align: center;">令和6年度に向けての施策構築方針（たたき台） ～自分らしく一歩進める「健康しが」推進方針～</p> <p>1. 現状認識</p> <p>世界では、気候変動による異常気象の多発や生物多様性の喪失、インフレの継続、ロシアのウクライナ侵略や、生成AIの急速な普及といった技術革新などが社会・経済構造に大きな変化をもたらしている。</p> <p>国内では、新型コロナウイルスが5類感染症になり、社会や経済の活動が平時に移行し、県内でも消費や企業活動に前向きな動きが見られる一方、円安や物価高が生活や事業活動にもたらす影響や、コロナ禍で顕在化したつながりの希薄化、孤独・孤立、メンタルヘルスの問題などから、先行きや社会生活への不安感が取り巻いている。</p> <p>また、人や社会との関わりと経済的な要因などが相まり、子どもを産み・育てたいと望む人々のためらいや諦めが、予想以上の出生数の低下にも現れている。</p> <p>さらに、生きづらさや孤独感を感じ、社会との関わり方で苦しむ子ども・若者の不登校、自殺の増加が深刻な状況であり、国を挙げて、子どもの命が守られ、自分らしく、健やかに、安心して過ごせる社会の実現を目指す機運が高まっている。</p> <p>社会・経済環境は、行動制限の緩和、DX（デジタルトランスフォー</p>

一方で、デジタル化の進展、未来志向の経営革新など、社会的課題をチャンスと捉えた前向きな変化も生まれている。この動きを加速化するためには、各分野・各地域を支える人材の育成・確保、イノベーションの創出やデジタルの力のさらなる活用が必要である。

また、社会構造の変化がもたらす人々の価値観の変容により、滋賀の強みである自然や歴史文化、人と人とのつながり、利他のところ、「三方よし」の理念など、お金やモノ以外の「新しい豊かさ」の重要性が再認識されてきており、県内外・海外に滋賀の魅力を発信する好機となっている。

## 2. 基本的な考え方

令和5年度に向けては、基本構想で掲げる「未来へと幸せが続く滋賀」の実現のため、コロナ禍で再認識した滋賀の強みを手がかりに「新しい豊かさ」を追求するとともに、一人ひとりの不安や孤独、生きづらさに寄り添い、社会の変化や課題に適切に対応する施策を構築し、子どもたちが将来にわたって幸せと誇りを感じられる「健康しが」を目指す。

あらゆる政策の中心に子どもを置いて、子どもの声や思いを尊重し、

一メーション)の進展、未来志向の経営革新や起業の活性化など、社会的課題をチャンスと捉えた前向きな動きが加速している。特に、訪日外国人の増加や国際交流の再開、2025年の大阪・関西万博開催を控え世界から注目される関西など、世界を意識した動きが不可欠となっている。こうした動きを支える人材の育成・確保、GX(グリーン・トランスフォーメーション)への対応、イノベーションの創出、デジタルのさらなる活用が必要であるとともに、紡がれてきた滋賀の自然、歴史・文化、先進的な取組、魅力を県内外、海外に発信し、地域の活性化につなげる好機となっている。

いま、社会構造と価値観が変容する中で、人と人とのつながり、利他のところ、「三方よし」を再認識し、改めて「豊かさ」や「幸せ」を考え、社会のあり方に向き合い、子ども・若者が夢と希望とともに歩む未来を展望し、行動に移す重要な分岐点にいる。

## 2. 施策の柱

令和6年度に向けては、基本構想実施計画(第2期)に掲げた政策を着実に推進するとともに、世界の潮流を意識することや、GX・DXの可能性の追求をしながら、未来を見据えた新しい一歩を踏み出す施策を構築し、県民のひとりひとりが自分らしく歩め、誰もが幸せと誇りを感じられる「健康しが」を目指す。

そのため、次の5つの柱を設定し、施策構築に取り組む。

子どもとともに考えながら、社会全体で子どもの健やかな育ちを支える環境をつくる。

今後も人口減少により急速に過疎化が予想される北部地域について、地域の魅力や可能性、北陸新幹線敦賀駅開業の機会等を生かして振興を図る。

### 3. 施策の柱

「2. 基本的な考え方」を踏まえ、令和5年度は、次に掲げる柱を中心に施策を構築する。

#### 子ども・子ども・子ども

長引くコロナ禍など困難な状況にあっても、子どもたちの健やかな育ちや学びの環境が損なわれることのないよう、子ども施策の強化を図る。取組にあたっては、子どもの意見を尊重し、参画を進めるなど、子どものために、子どもとともにつくる社会の実現に取り組む。

#### ひとづくり

人口減少、少子高齢化に伴う労働力不足やDX、CO<sub>2</sub>ネットゼロといった社会構造の変化にシなやかに対応していくためには、社会の最大の資源（資本）である「ひと」の力を最大限に引き出す必要があることから、各分野・地域を支える「ひと」の育成・確保に注力するとともに、技術、知識、価値観のアップデートやイノベーション創出な

#### 子ども・子ども・子ども

真に子どものための施策を推進し、子どもとともにつくる社会の実現に取り組む。

※滋賀県子ども政策推進本部の議論を踏まえて、記載。

#### ひとづくり

社会課題にシなやかに対応していくためには、「ひと」が「ひと」を大切にシ、全ての世代がその感性や力を発揮しながらも、それぞれが望む方法で自分らしく生きていくことが重要である。そのためにも、子ども・若者が自ら考え、生きる力を育む学びの場づくりや、リスクリングやリカレントへの支援など各分野・地域を支える「ひと」

どにつながる場づくりに取り組む。

また、「自分らしさ」を尊重し、すべての世代が力を発揮でき、それぞれが望む方法でその人らしく生きる環境づくりに取り組む。

#### こころとからだの健康づくり

すべての県民が元気で健やかな生活を送ることができるよう、こころとからだの健康の両立を目指した取組を推進する。

また、未知の感染症も想定した体制の強化を図るとともに、安心して医療・福祉・介護サービスが利用できる環境づくりに取り組む。

#### 安全・安心の滋賀づくり

「健康しが」の基盤として、すべてのひとが安全・安心に暮らすことができる社会を目指す。

また、コロナ禍で傷んだ様々なつながりを再構築し、人権が尊重され、すべてのひとに居場所と出番がある共生社会の実現に取り組む。

#### グリーン・デジタルによる経済・社会づくり～コロナからの反転攻勢～

気候変動対策をはじめとした環境保全の取組により生み出される価値やデジタル技術を有効に活用し、コロナからの経済回復や持続的で魅力ある地域社会づくりに取り組むとともに、県外・海外への滋賀の魅力発信を強化する。

また、グリーン・デジタルの推進と産業振興、経済成長を両立する環境づくりに取り組む。

の育成・確保に注力する。

#### 安全・安心の社会基盤と健康づくり

すべての県民の人権が尊重され、安心して医療・福祉・介護サービスを利用し、共生する環境づくりに取り組むとともに、スポーツや文化に触れる場、気持ちを豊かにする公園など、人が人や社会、自然とつながる場づくりを大切に、こころとからだの健康の両立を目指した取組を推進する。

また、誰もが行きたいときに、行きたいところに移動できる環境づくりや、安全・安心に暮らすことができる社会基盤づくりに取り組む。

#### 持続可能な経済・社会づくり

GX・DXを促進するとともに、新たな技術や知見の適切な活用と、持続可能な経済・社会活動、地域循環型の社会づくりを促進する。

「琵琶湖システム」にみられる、時代に合わせて柔軟に進化する農業や漁業のような産業を次世代につないでいく。

高等教育機関や企業等と積極的に連携し、技術、知識、価値観のアップデートや、イノベーション、スタートアップ創出につながる場づ

(新設)

くり等に取り組む。

地と知の利を生かした産業立地や育成を進めるとともに、滋賀ならではの魅力を県内外へ発信し、満足度の高い「シガリズム」へつなげていく。

姉妹友好協定による国際交流を推進し、新たな交流先について検討していく。

**自然環境や生物多様性の保全・再生**

琵琶湖とそれを取り巻く環境、生物多様性の保全再生や多面的機能の持続的発揮に向けた森林づくり、多様な主体との協働による「マザーレイクゴールズ (MLGs)」の取組を進める。

3. 集中的な取組

上記の柱に加えて、柱をまたがって取組が広がる重点テーマを設定し、集中的に取り組む。

(1) 県北部地域の振興

県北部地域において、他地域の先行モデルとなるよう、地域の魅力や可能性を伸ばす振興策の具体的な実践に向けた取組を進めていく。

(2) 注目イベント開催へのカウントダウンとレガシーの創出

<p>4. 留意事項</p> <p>(1) SDG s の達成に向けた施策の展開 県庁SDG s アクション (Ver.1) を踏まえ、目指すべき姿 (バックキャストの発想) を明確にし、どのターゲットに向けてどのような実践を進めていくのかを意識すること。</p> <p>(2) データや情報等を根拠とする課題抽出や施策の立案 (EBPM) 県民や市町の声、データや情報等、合理的な根拠に基づいた適切で効果的な施策の立案 (EBPM) に努めること。</p> <p>(3) 「届ける」を意識 施策に県民等が共感し、行動や参加につながるよう、デジタルを活用するなど「届ける」ことを意識すること。</p> <p>(4) 既存施策の廃止・見直し</p>	<p>2025 年開催の大阪・関西万博や滋賀県国スポ・障スポ大会といった世界や日本を代表するイベントの機会をとらえ、機運醸成やレガシーの創出に向けた取組を進める。</p> <p>4. 留意事項 施策を立案するにあたり次のことに留意すること。</p> <p>(1) SDG s の達成に向けた施策の展開 県庁SDG s アクション (Ver.1) を踏まえ、目指すべき姿を明確にし、ターゲットと取組の位置づけを明確にして施策を展開する。</p> <p>(2) データや情報等を根拠とする課題抽出や施策立案 (EBPM) 県民や市町の声、データや情報等、合理的な根拠に基づいた適切で効果的な施策の立案 (EBPM) に努めること。</p> <p>(3) 「届ける」を意識 施策に県民等が共感し、行動や参加につながるよう、デジタルを活用するなど情報を「届ける」ことを意識する。</p> <p>(4) 既存施策の見直し</p>
---	---

新たな施策の構築にあたっては、その前提として、既存施策の必要性等を検証し、その存廃や内容の見直し、効率化できる部分はないか等、これまで以上に何を見直すのか、どこにリソースの重点をシフトしていくかといった視点からの検討に努めること。

(5) チャレンジングな施策立案

多様な職員が部局を超えて個性や発想を持ち寄り、施策立案に挑戦すること。

新たな施策の構築にあたっては、真に必要な施策に経営資源をシフトさせていく視点から、既存施策の必要性を検証し、その存廃や内容の見直し、優先度や効率化などを検討すること。

(5) チャレンジングな施策立案の推進

2026年以降を展望して着手する施策や、世界を意識して取り組む施策について、職員が部局を越えて発想を持ち寄り、個性や能力を発揮して立案する手法や、企業や大学との連携等による、新たな時代にふさわしい立案手法などに挑戦すること。